



教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 ©1994 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6 TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

科学より大切なこと

腎臓病の子供たちのために

第四回国際新生児腎炎研究セミナーにお集まりの皆さん、心から歓迎の意を述べさせていただきます。(…) 幼児・新生児のための病理学研究は、医学が真に人間に奉仕しようとするかぎり、どうしても必要な分野です。それは至高の価値に通じる倫理・道徳上の選択に基づきます。ですから、皆さんの研究会が「幼児性腎炎の生命倫理学」についての報告で始まったのは、たいへん意義深いことと考えます。

科学の知識には、守るべきそれ自身の法則があることは確かです。しかし以前、同様の機会に述べたように「科学は他の全てのもので従える最高の価値とはならない。価値の尺度のはるか上方には、個々の人間が肉体的・霊的・精神的にも機能的にも完全な状態を保つ権利が存在す

る」(医学と外科学の二つの学会に寄せてのお話、一九八〇年十月二七日)のです。

倫理は技術に優先する

誰もが気づいているように、教会と教職が強い関心を持っているのは、経験科学のある分野での資格があるか否かとは関係なく、むしろ「倫理が技術に、人格が物に、精神が物質にまさっていること」(回勅「人間の贖い主」16番参照)を再確認することです。

従って、皆さんの仕事の厳密に方法論的な組織は評価できます。真の科学研究を促し、励ますのはこれをおいて他にはないからです。幼児の病理学研究は、成長の過程での重大な、傷つきやすい時期にある人間にとって、この上ない奉仕です。その意味で、これは人間の知性が生命の神秘に対して

捧げるのにふさわしい賛辞となっています。「人間の生命が神聖であるのは、それが初めから神の創造のわざの結果であり、またその唯一の目標である創造主と永久に特別な関係を持ち続けるからである。」(「生命のはじまりに関する教書」序論5)

ごく幼いころ、すでに胎児期・新生児期に腎臓病の診断を受けた子供たちが数多くいます。病気をくいとめるためには、時宜にかなった診断が必要不可欠です。それと同時に、治療に伴う苦痛や負担を軽減し、腎臓疾患という困難に苦しむ家族や親族を救うことが、何よりも要求されます。実際、近年この分野で多くの研究団体が成し遂げた業績のおかげで、幸いにも子供の慢性腎臓疾患は減りつつあります。

幼児期から困難な透析を受けなければならぬ人もあり、社会に与える影響が懸念されます。ですから、成人の間にもこの病気が広がっていることを考慮して、腎臓透析を受ける子供がこれ以上ふえぬようにしなければなりません。

腎臓病は他の病気にも増して、家族や社会を巻き込みます。社会の側では常に十分な治療体制が整っているとは限りません。しかし進歩が見られるためには、皆が状況の深刻さに気づき、医療政策を充実させ、生命を守りその質を高めるための研究や対策を進める方向に向かわせなければなりません。

人間の尊厳を守る

教会はこうした問題には敏感です。(…) 病気のつらさ、人間的、個人的、社会的な損失、腎臓移植の需要と供給が釣り合わず、手遅れになってしまうような事例；それでも科学は(研究面でも実践面でも)一層の努力を怠ることはできません。皆さんの研究会のようなプロジェクトを通じて、世論や医療政策責任者を啓発し、生

命への奉仕を進め、力づけなければなりません。皆がなすべきこのような努力の中で、皆さんの仕事は宣教となり、幼い患者たちへの愛は生命に対する真実の奉仕の表れとなり、多くの困難を前にしてもひるまぬ意欲は人類連帯の模範的な証となることでしょう。

このような高貴な仕事に携わる皆さんに、私の心からの激励と感謝を申し上げます。加えて、いつも皆さんのためにお祈りすることを約束します。特に若い患者たちのご家族のために、神と人々の御母マリアの取り次ぎのもとに、日々キリストの希望に支えられて苦痛を乗り越えることができるよう、主にお祈りします。皆さんに祝福を送ります。(九三・五・七)

神のおきてを守れば

自由に生きる



「命を受けたいのなら、おきてを守りなさい。」(マテオ19・17) イエズスのこの言葉は、道徳義務の持つ深い意味を、人が心に抱く命への望みと関連させて指し示したものです。(回章「真理の輝き」7番参照) これは、熱心に命を求めているにも関わらず、皮肉にも人を惑わす「死の文化」の誘惑にさらされる現代人に

とって実に貴重な教えと言えます。道徳律を命への望みを断つ縛であるかのように言うのは間違いです。事実とは反対で、人は神の掟を守れば守るほど命を保ち、より自由になるのです。掟を正しく理解するならば、それが単なる禁止事項一覧表ではなく、人格の真の尊厳に結びついた基本的価値を表す

「命を受けたいのなら、おきてを守りなさい。」(マテオ19・17) イエズスのこの言葉は、道徳義務の持つ深い意味を、人が心に抱く命への望みと関連させて指し示したものです。(回章「真理の輝き」7番参照) これは、熱心に命を求めているにも関わらず、皮肉にも人を惑わす「死の文化」の誘惑にさらされる現代人に

ものであることがわかるでしょう。掟を守れば、人は自らの存在と心の呼びかけに一致した行動を取り、完全な命への道をたどることが出来ます。その命はイエズスから出、イエズスの姿に示され、完成を見ます。「命に入りたいのなら、おきてを守りなさい。」人とは何者でしよう? いつから、一個の人格として存在するようになったのでしょうか? その尊厳とは…?

永遠の命を見つめて

(九三・九・二六、イタリアのアステイへ司牧訪問の際、若者たちに向かって。)

★ 若い人たちは長きにわたって私を「試し」てきました

から、質問を受けるのはもう慣れました。はじめはどうしたものかと思いましたが、何とかがんばって答えてきたつもりです。若者とは、いい人たちです。たとえばこんなふうに励ましてくれます。「教皇万歳!」 教皇は長生きすべし、強くあるべしということですね。心得ました。

先に二つの質問が提示されています。これは二つのテーマにつながります。一つは新しい福音宣教について、もう一つはボランティア

こうした重大な問いかけに対して現代文化の示す答えはあいまいで、時には誤解を招くものです。倫理上の相対主義は、全ての人間に属する生命の本質と尊厳の敷居を越えて、不法で憂慮すべき実験にまで及んでいます。当然ながら人類一般の良心はこれに反発しません。深い戸惑いを覚えずにはいられません。実際、ひとたび一線を越えてしまえば、架空の操作や自己破壊を招く狂気から人間を守る

★ 活動について。福音宣教とボランティア活動という二つの提案、もしくは二つの現実は、うまく両立するものであり、いくつかの点で関連し合うものです。

★ しかし、今はこれら二つのことにはさておいて、福音書に見られる主要な問題に入ってみたいと思います。イエズスと青年との出会いと会話の場面です。二千年も前に皆さんのような若者の一人が問いかけた質問を、黙想や祈りの中で常に問いかけてほしいのです。彼は何と言ったのでしょうか。「永遠の命を受けるために私はどうしたらよいのでしょうか。」

私が何よりも皆さんに望むのは、自らの存在についての見

ものが何もなくなってしまうことを誰もが感じています。今世紀の歴史を振り返ればわかるように、狂気の沙汰は法廷や議会によっていともたやすく押しつけられ得るのです。これ以上例をあげる必要はないでしょう。

回章「真理の輝き」で言及したように、受胎の瞬間から人命を尊重するということは、道徳律の基本的でゆずれない要請です。人間の内部でも周囲でも、多く

通し、この永遠の命を念頭から失わぬことです。地上のはかない人間的なことがらを、永遠の命に照らして判断しなければならぬのです。

★ 青年は重大なことを尋ねたのです。「何をすべきでしょうか?」 今日、いま、何をすればいいのでしょうか? つまり、過ぎ行くこの世の生活、過去から未来へと流れてゆくこの世での生活を、計画立てて送らなければなりません。いまこの瞬間にも適用すべき計画が必要で、す。「いま、ここで」何をしたらよいのでしょうか? もしその計画が適切でしつかりしたもので、福音に合致したものであることを望むなら、常に永遠の命という観点から見直さなければなりません。皆さんに繰り返し申します、二千年前のこの若者の問いかけを、皆さん自身の問いかけにしてください。

永遠の命を見失わぬように

の変化が見られます。それでもなお、変わらぬものがあります。人間の「本質」、理性に照らして知ることができ、神の啓示によって保証され高められた本質が、それです。

普遍的で変わらぬ道徳律は、この永遠の法に基づいています。その法は私たちの前に限らない善の地平線を開き、犯してはならない限界を示してくれまます。状況や意向がどうであれ、本質的によくない

★ 皆さんも自分自身とイエズスに同じ問いを発しています。

幾度も繰り返し問いかけ、問い直し、永遠の命を見つめていた。私たちはキリストにおいてそこに招かれている、いや、御父によって、イエズス・キリストを通して、永遠の命に定められているのです。このことを念頭に置いて、この世での現在の生活と皆さんの人生計画を眺めてください。この二つの次元、すなわち永遠の命とこの世での現在の生活とを同時に比べ合わせる事ができるなら、正しい人生行路をたどることが出来るに違いありません。

★ 時には世俗主義の誘いにはまる危険があります。世俗主義とは何でしょうか? それは永遠の命を見失うこと、そんなものは存在しないかのように生きること、神などおられぬかのように日々を過ごすことです。現在の私たちの文明には、ここだけではないにせよ特に西欧社会で、世俗主義が蔓延し

い行いは、容認できるものでも、善となるものでもありません。 (「真理の輝き」頁80-81)

聖なる処女、贖い主の御母に願いましよ。現代人を無謀な行いと病んだ良心からお助けください。道徳の真理をはつきりと知ることが出来るよう、お助けください。人類の未来は、その真理を守れるかどうかにかかっていますから。(…)(九三・十・三一、聖ペトロ広場に集まった人々に。)

★ ですから皆さんには決して永遠の命を見失ってほしくないのです。キリストは私たちに、物理的な力と言うよりも道徳的・霊的な力と呼びに、いや連れに來られた。その力は十字架と呼ばれ、復活とも呼ばれます。今も働き続けるその力は、聖霊と呼ばれます。キリストは私たちが永遠の命に呼び寄せ、導くために來られたのです。

★ こうして、私たちにはイエズスのお答えの最後の一句がよりよくわかります。「私にいてくれるがよい。」これは単に身体的な意味ではありません。「ついて来る」とは「私がかしを通して、何よりも十字架の力と復活を通して、聖霊を通して、示したものを受け入れることだ。私があなたに示したものを、あなたのために準備し、差し出すもの、あなたに向かつて宣言したこと、あなたのために、あなたと一緒に成し遂げたことを受け入れることで

説教・講話・書簡等の抄訳

ある。「私についてくるがよい。このへんで結びにしましょう。あとは皆さん自身で考察を続けてください。きつと実り豊かな結果が得られるでしょう。この問いかけとそれに対するイエズスのお答えが皆さんと共にありますように。(…)

この世の精神に飲み込まれるな

(先頃の「世界若者の日の集い」で)キリストがデメンバーにもたらされました。そんなことは不可能と思える、現代のメトロポリスです。「たいへん多くの若者たちが集まってくる。混乱が予想される。でも実際には、混乱は起りませんでした。あの集いはすばらしいあかしでした。皆さんも証人として呼ばれています。



ボランティア活動とは何でしょうか? 福音宣教とは何でしょうか? それはあかしを立てるという行為によって、あかしへの挑戦によって始まるのです。親愛なる皆さん、私は皆さんが常にこの挑戦を心にとめ、愛するようになっていただきたいと思えます。キリスト信者、特に若い信者なら、福音の挑戦を愛するべきです。福音の呼びかけの前にして、この世の精神と世俗主義に打ち負かされてはいけません。個々の人間と共同体の未来は皆さんの立てるあかしと若々しい福音宣教にかかっています。だから、歩みをとめないでください。皆さん全員に感謝しています。

皆さんは、苦しむ仲間の若者たちを招いて、特等席に座らせてくださいました。感謝いたします。皆さんと共に、この仲間たちも誇りを感じ、こうして十字架にかけられ復活されたキリストから誉れを受けていることを感じて、誇らしく思えるでしょう。



ラテン語をご存じですか? 少しはできるって? では

「multitudo」とは何のことかわかりますか? わからない? 「おしゃべり屋」という意味なのです。私もそう呼ばれないうちに、短かい福音メッセージをお伝えして、皆さんに自分の問題、召命、キリスト信者としての大いなる召命についての黙想を続けていただこうと思えます。再びお願いします、どうか教皇を一人ではなく、常に若さを保つ者としてください。

皆さんも常に若さを保つよう努めてください。福音書のあの青年のようにあるまわぬいでください。イエズスの答えを聞いた青年は、悲しそうに立ち去りました。イエズスにつき従うのは無理だと思えたからです。皆さんには、悲しみに沈んでほしくありません。喜びに満ちていてほしいのです。すなわちイエズスについて行き、イエズスの望み通りに行ってほしいのです。召し出しに因る決意によって、つき従ってください。何よりも、愛のわざと、神と隣人への愛に成長することによってつき従ってください。これを私のメッセージの結びとします。

(昨年十一月号からの続きです。)

教会は組織立った社会

教会シリーズ 17

使徒たちに託された義務

5

以下はイエズス・キリストが十二使徒に託された使命に根ざす、特定の役目です。

a) 全ての国民に宣教する使命と権能。これは共観福音書の三つともが明らかに証言するところです。(マテオ28・18、マルコ16・16、ルカ24・45、48参照) 中でもマテオは、イエズスの救い主としての力と使徒たちに授けた命令との関係が、イエズス自身によって制定されたものであることを強調します。「私には天と地の一切の権威が与えられている。だからあなたたちは諸国に弟子をつくりに行け。」(マテオ28・18) 使徒たちは、自分たちに示されたキリストの力ゆえに各自の使命を果すことができるのであり、また果さねばなりません。

b) 洗礼を授ける使命と能力(マテオ28・19)は、聖三位の御名によって洗礼を授けるようにとのキリストの命令を果すことです。(同上) これはキリストの復活の秘義と結び付いているので、使徒行録でも、イエズスの御名による洗礼であると考えられています。(使徒2・38、8・16参照)

c) 聖体祭儀を行う使命と能力、

すなわち「私の記念としてこれをおこなえ。」(ルカ22・19、Iコリント11・24、25) 最後の晩餐でイエズスが行われたパンとぶどう酒の祝別を再び行えという命令には最高度の能力という含みがあり、キリストの名において「これは私の体」「これは私の血」と言うことは、この秘跡的行為によって、いわばキリストと同一化することなのです。

d) 罪を赦す使命と能力。(ヨハネ20・22、23) 使徒たちは、人の子が持っている、地上での罪を赦す力に参与します。(マルコ2・10参照) イエズスの公生活で群衆を驚かせたあの力です。群衆は「これほどの権威を人間にお与えになった神を賛美した。」(マテオ9・8)

6

この使命を果すために、使徒たちは権威に加えて聖霊の特別な恩寵を受け(ヨハネ20・21、22参照)ましたが、それはイエズスがかねて約束しておられたように聖霊降臨の時に明示されました。(使徒1・8参照) この恩寵のおかげで聖霊降臨以後の使徒たちは諸国の民に宣教せよとの命令に着手することができたのです。第二バチカン公会議は、教会憲章の中でこう述べています。

「使徒たちは至る所で福音を宣教し、聴衆は聖霊の働きによってその福音を受け入れ、こうして使徒たちは普遍的な教会を集める。この教会は主が使徒たちのうちにつくり、彼らの頭である聖ペトロの上に建てられたものであり、キリスト・イエズス自身を最高の角の親石とするものである。(黙示録21・14、マテオ16・18、エフエソ2・20参照)」「(19番)

7

十二使徒の使命の中には、基本的な役割が一つあります。これは十二使徒にだけ取っておかれた役割で、他の人々には継承されないものです。すなわち、キリストの生と死と復活を目標とした証人であり(ルカ24・28参照)キリストのメッセージを初代教会に伝えて神の啓示と教会をつなぐ環となり、またその故に、キリストの御名と力によって、聖霊の働きの下に教会を創設しました。

十二使徒は、その働きのゆえに教会の中で特異な重要性をもつグループとされています。ニケア・コンスタンチノープル信経で、教会が使徒継承である(一、聖、公、使徒継承の教会を信じます)と定義されているのも、十二使徒との切っても切れないつながりによるのです。教会が使徒たちを賛える特別な荘厳儀式を典礼に組み込んでいるのも、そのためです。

8

ともあれイエズスは、全ての国民に宣教する使命を使徒たちに授けられました。この使命には非常に長い時間がかかり

「使徒たちは至る所で福音を宣教し、聴衆は聖霊の働きによってその福音を受け入れ、こうして使徒たちは普遍的な教会を集める。この教会は主が使徒たちのうちにつくり、彼らの頭である聖ペトロの上に建てられたものであり、キリスト・イエズス自身を最高の角の親石とするものである。(黙示録21・14、マテオ16・18、エフエソ2・20参照)」「(19番)

不変の教え

ます。実際、「世の終りまで」(マテオ28・20) 続くことでしょう。使徒たちが後継者を設け、相続人かつ代表者である彼らが使徒の使命を継続することが、キリストの意志であることを使徒たちは知っていました。そこで彼らは、各地の共同体に「司教と助祭」を任命し、「そうして、使徒たちの死後にこれらの承認された人々が監督職の後継者となるように手配した。」(1 Cor. 4:2, cf. 4:21-4)

使徒たちは聖職位階制の始まり

こうしてキリストは教会に、聖職位階制による聖職者組織を設立し、使徒とその後継者によってそれが具体化されました。この構造は、すでにできあがっていた共同体のような前例から発したものでなく、キリストが直接作られたものです。使徒たちが同時に新しいイスラエルの種子であり、聖職位階制の始まりでもあったことは、公会議の「教会の宣教活動に関する教令」に述べられている通りです。(5番) それゆえこの制度は教会の本質そのものに属し、イエズスが果された神の計画によつています。同じ計画によつて、この制度はキリスト教共同体の発展の全過程に渡り、不可欠の役割を担うものです。それは聖霊降臨の日から世の終りまで、選ばれた全ての人が天のエルサレムで、永遠の「新しい生命」に十全にあずかる日まで続くのです。(…)

(シリーズ17・完)

自由が真理に基づかなければ

人間は奴隷になる

「真理はあなたたちを自由な者とするだろう。」(ヨハネ8・32)

イエズスのこの言葉は、最新の回章「真理の輝き」の大きなテーマです。同回章は真理を宣言し、自由を称えることを目指したものです。自由こそは現代人が強く意識し、教会がこの上なく尊重するものです。ところで、自由とは何でしょうか?

現代文化はこの問いを劇的に体験しています。実に、自由が絶対視され、責任感や他の何によつても制限を受けないと考える傾向が広がっているのを目のあたりにします。しかし、このような自由の理解は明らかに偽物であり、危険です。どこか社会でも、自由の行使にあたっては何らかの規制が必要であると感じたのは偶然ではありません。

規制が必要だという、その根拠は何でしょうか? もしそれが全く実際の問題で、何ら深い裏付けのない型通りの介入ですむというのなら、社会はいかかわらず気まぐれに支配され、いつでも一番強いものが幅をきかせる状態になると言えます。秩序ある自由を本当に保証してくれるのは、自由の拠つて立つ道徳的な基盤であり、それは個々の人と共同体全体が認

めるものでなければなりません。「真理はあなたを自由な者とするだろう。」

福音書によれば、自由は真理という岩の上に立つべきものです。実際に可能ならどんなことでも道徳的にも合法だ、というわけには行きません。道徳上の自由とは、好き勝手にする能力ではなく、人間が自ら進んで神の子・創造主の似姿としての自己の使命にあざわしく行動する能力のことです。

従つて、人間は自らの本質から生じる心の奥の変わらぬ要求に目をつぶるなら、真に自由だとは言

民衆信心

「真実のマリア信心をお勧めしたいと思えます。聖母は信仰の旅路における私たちの模範、教会の子供として、また兄弟姉妹たちと共に信仰あふれる信徒として、キリスト教的価値を証しようとする皆さんの模範です。」(…)(ローマでのお話から)

巡礼者の皆さんの熱心さから見て、祝された処女への皆さんの献身の深さはよくわかります。そこにはたいへん勇気づけら

えません。それを忘れれば、人は最悪の本能のとりこ、すなわち罪の奴隷(ヨハネ8・34参照)になりさがってしまいます。個人的にも社会としても、悲惨な結果を招くことでしょうか。悲しいかな、そういう事例には事欠きません。しかし、個人にとつて先ほどの真理を確かに自分自身のものとして認めることができるでしょうか? おそらくこれこそが、相対主義と懐疑主義に染まった現代の最重要問題です。

教会は、罪のためにいくらか曇り、弱まっています(現代世界憲章、15番参照)にせよ、理性の力を信じています。理性は私たちが「神の知恵の光にあざからせ」、常に良心を通じて道徳上の真理を示してくれま。従つて理性は信仰に対立するどころか、信仰を支

れるものがあります。しかし同時に、皆さんの言う「道のほこり」も吸い寄せられてしまうので、掃除をしなければなりません。そこで、マリア信心の根源から、信仰の源に福音的な完全性を与える必要があります。そうすれば、信仰の旅路をたどる皆さんの人生で、なぜマリアを模範と仰ぐのがわかるはずで。福音の教えに基づくマリア信心の真の理由が、個人としても共同体としても、よく理解できるはずで。実際、福音への信仰という根源

めでたし、恵みに満ちた方

え、確認し、深く悟らせてくれるのです。人となられたみことばイエズスは、神を人間に啓示されただけではありません。人間とは何者かを人間自身に啓示されたのです。(同22番参照) キリストは人間の贖い主です。「自由を自由なもの」とされる」(「真理の輝き」86番)のもキリストです。皆さん、上知の御母マリアの取りなしを願ひましょう。教会が現代の人々への証となることができま。謙虚に、そして力強く、辛い誤解を解くための証ができますように。そして何よりも、まず私たちが勇気をもって、言葉には出さずとも福音に従つて、首尾一貫した生活を人々に示すことができま。従つて(九三・十七、聖ペトロ広場にて。新回章「真理の輝き」についてのお話。)

から切り離された民衆信心は、ただの民間伝承か慣習にすぎないものになり、その精髓を失つてしま。従つて、人々の宗教心、マリア信心に真実性を与えるのはキリストへの信仰、マリアへの献身、そしてマリアに倣おうとする熱意なのです。スペインは聖マリアの国であり、マリア信心が深く根付いていますが、神の言葉を聞き、黙想することによつて常に信仰を養い、磨き、マリアへの愛が日常生活のあらゆる場面で思いと行いを導く模範となるよう努めなければなりません。(…)

(九三・七・十四、スペインで)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月十日発行 定価 一部八十円 送料実費 一年予約九百円 送料七百円 千部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 3-72393